

# 派遣留学生帰国報告書

\* 復学後の情報を入力してください

記入日	2016年5月21日		
所属学部	工学研究科		
所属学科・専攻	デザイン科学専攻		

## 1. 留学先について

留学先大学名	バンドン工科大学			
留学先所属学部等	Master in Design			
留学期間	出発日 8月19日	入学日 8月24日	修了日 4月29日	帰国日 5月18日
住居	<input type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート <input type="checkbox"/> 民間アパート <input checked="" type="checkbox"/> その他( <small>kostanと呼ばれる民間のフラットシェアのようなもの</small> )			
	通学時間	30分		<input type="checkbox"/> On campus
	通学方法	Angkotと呼ばれる乗り合いバス		
	居室スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> ( ) 人部屋 <input type="checkbox"/> その他( )		
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室 <input checked="" type="checkbox"/> キッチン <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> リビング <input type="checkbox"/> その他( )		
食事	自炊 5 %	学食 10 %	外食 85 %	その他 ( ) * %で記入してください
保険	海外旅行保険(名称)	損保ジャパン日本興亜 海外旅行保険		
	大学指定の保険(名称)			<input type="checkbox"/> 強制加入
	その他			
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)			
	成田 ⇄ シンガポール(飛行機) ⇄ バンドン(飛行機)			

## 2. 留学にかかった費用について

総費用	800,000	円	* おおよそでかまいません。			
出処						
自費	<input type="checkbox"/> 貯金	円	<input type="checkbox"/> アルバイト	円	<input type="checkbox"/> その他	円
援助	<input type="checkbox"/> 両親	円	<input type="checkbox"/> 家族・親戚	円	<input type="checkbox"/> その他	円
奨学金	<input type="checkbox"/> JASSO	円	<input type="checkbox"/> その他名称( )			円
その他	<input checked="" type="checkbox"/> 千葉大学助成金	202,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> その他(左藤陽国際奨学財団)	1,070,000	円

## 2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input checked="" type="checkbox"/> 現金	50,000	円	<input type="checkbox"/> その他( )	円
留学中	<input type="checkbox"/> 海外送金	<input checked="" type="checkbox"/> キャッシング	<input type="checkbox"/> その他( )		

## 2-2. 各費用の支払い方法 ex.)全額、クレジットカードで。

大学に払った費用	留学先の大学にはお金を支払ったことがない
住居にかかった費用	全額キャッシュ
その他	プライベートの語学の先生へのレッスン代はキャッシュ

## 2-3. 内訳

\* 外貨で払ったものについては日本円に換算したおおよその金額も記入してください

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			115,000	円
海外旅行保険			117,000	円
OSSMA			20,000	円
査証・在留許可証	インドネシアルピア	3,550,000	34,000	円
住居	インドネシアルピア	18,000,000	16,200	円
食費	インドネシアルピア	18,000,000	16,200	円
通学に要する交通費	インドネシアルピア	720,000	6,480	円
教科書、教材費	インドネシアルピア	200,000	1,800	円
その他大学に支払った経費				円
光熱費	インドネシアルピア	200,000	1,800	円
その他 ( スマホ通信費 )	インドネシアルピア	100,000	9,000	円
その他 ( 予防接種代 )			100,000	円
その他 ( 語学レッスン代 )	インドネシアルピア	11,200,000	108,000	円
その他 ( 旅行費 )	インドネシアルピア		75,000	円

3. 学業面 \*必ず、後日、留学先の成績証明書と単位の互換認定が反映された千葉大学成績証明書を提出すること。

履修科目名 *全て。足りない場合には別紙に記入してください。	種類 <sup>ex.正規、聴講</sup>	単位数	単位互換認定申請の有無
1 Product Design IV	正規	5	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
2 Product Design & Lifestyle Product Design & Lifestyle 1	正規	2	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
3 Environment Product Design	正規	2	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
4 Artifact Product Design	正規	2	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
5 Design Theory I	正規	2	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
6 Revitalization of Traditional Design	正規	2	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
7 Desain Berkelanjutan 2	正規	2	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
8 Pengembangan Komunitas & Industri Kreatif	正規	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
9 Semiotika Desain	正規	2	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
10 Method Penelitian Desain	正規	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
11 Teori Desain II	正規	2	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
12 Desain dan Faktor Manusia II	正規	2	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
13			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
14			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
15			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
16			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
17			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
18			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
19			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
20			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

\*登録時期や千葉大学と異なる方法で登録する場合など具体的に説明してください。

一般学生は学生用のサイトがあり、そこから登録できるらしいが、交換留学生はなかったため所属の学務窓口で直接申請した。係の方に自分の取るコースと名前、学籍番号などを書いた紙を渡してお願いした。しかし学期の授業期間内に自分の名前が出席表に記載されることはなく、いつも自分で書き足していたので、正式に登録されていたかは不明。私の担当の先生が私のとった成績を Semester 終了後チェックし、学部の上の人に提出してくれていたもので、もしかしたらそこで正式に登録されていたかもしれない。

### 3-2. 授業内容、方法に関して

基本的には講義はインドネシア語で行われ、クラスの前に映し出されるスライドには英語があった。どの教授にも、自分が留学生でインドネシア語だけでは厳しいので少し英語を入れてください、と頼んでいたため、話の中に少し英語を混ぜてくれる教授もいた。多くは講義スタイルであったが、中には自分たちでプロジェクトを行うものもあり、個人で進めるものやグループでまとめるものなどがあった。課題は講義のものはレポートが多く、プロジェクトのものはプレゼンテーションや冊子にまとめるなどの場合も多かった。 Semesterの中間と末にテスト期間が存在したが、学部の性質上、ペーパーテストは少なく、ホームテイクテストと呼ばれる、いわゆる課題の提出でテストの代わりとするものが多かった。課題の詳細内容などがわからない場合は友人に尋ねるなどした。

### 3-3. 語学力について

前述の通り、インドネシア語がメインであったため、英語の会話はそこまで伸びなかった。課題などは英語での提出も可能であったため、書きや読みの力は少しついたかもしれない。インドネシア語は週2回2時間ずつ個人のレッスンをお願いしていたのもあり、初歩段階からある程度の日常会話ならできるレベルになった。まだ授業の内容をインドネシア語だけで完全に理解出来るレベルではないが、課題の内容ぐらいであればだいたいわかるようになったので、最後の方は特に困ることもなかった。友人たちとは最初は英語で話していたが、だんだんとインドネシア語にシフトしていった。

### 3-4. 図書館など学内施設について

交換留学生の学生番号では学内でwifiが使えなかったため、あまり学内施設の利用は多くなかった。図書館は5階ぐらいまであり、千葉大のように本のスペースと自己学習のスペースがだいたい同じぐらいの割合であった。カンティーンは学内のいたるところにあり、小さいところから幾つかの屋台ぐらいのサイズのお店が集まっているところ、完全に持ち帰り用のところ、ちょっとおしゃれな小さなカフェ、ITBオリジナルのお土産が売っているところなどいろいろあった。また北部には運動できる場所があり、トラックやプール、ジムなどもあった。南の方にはモスクがあり、それ以外にも各建物には必ずお祈り用のスペースがあった。atmや郵便局も入っていた。

### 3-5. その他

自分の所属していた学部の建物が建て替えられていたところで、学部の授業は新しい校舎で受けられたが、大学院の授業は他の専攻の人が昔使っていたアトリエで行われていたため、クラスがとても狭かった。学校の中もそれほど掃除が行き届いておらず、トイレなど汚くて少し不快であった。留学生自体が珍しいという状況であったからか、私の所属した学部は留学生用の整備はほとんどされていなかったが、留学経験者の教授がほとんどであったこともあり、私に対して色々と協力的な場合が多く助かった。また逆に担当教員の教授に様々なことを相談し、融通を利かしてくれる場合もあった。

#### 4. 生活面 \* 気づいたこと、心掛けたことなどをご記入ください。

##### 4-1. 住居について

ITBの女子寮はなくどうやって部屋を確保するか困っていたところ、千葉大での研究室の知り合いにITBの卒業生がいたため、その人をお願いして留学前に部屋をおさえてもらった。トイレ、シャワーと8畳ぐらいの部屋が個別であり、台所が共有のフラットシェアのようなところ、通称kostanに住んでいた。私のkostanは男女共有のものだったが、女性専用もあるらしい。私以外の住居者は全員インドネシア人の学生で、約10人ぐらいいた。ベッドや机、テレビ、ファンなどの設備は備え付けで追加で家具を買うことはなかった。3階であったため、昼間ものすごく暑いのでオーナーが途中でエアコンを無料でつけてくれた。洗濯、掃除はお手伝いさんが住み込みで働いているので、その人たちがやってくれた。洗濯物については量に応じてお金を払ったが、一週間でいつもだいたい250円ぐらいだった。電気はプリペイド式で2か月に一度ほど残額が切れそうになるとお手伝いさんが教えてくれるので500円のチャージ金を渡して手続きをお願いしていた。台所はそれほど食器なども多くなかったの、袋麺を茹でたり、コーヒーを入れるために水を沸かしたりするぐらいで、しっかりと料理することは少なかった。このスタイルの部屋の家賃は一般的に月5000円から2万円程度であるらしく、私は月18000円と比較的高い家賃のところであったためか、シャワーでお湯が出たり、wifiが無料で使えたり、洋式のトイレが設置されていたりした。しかしお湯やwifiは日本に比べると不安定であった。

##### 4-2. 食生活について

衛生面に不安が大きかったので、最初の頃はできるだけきれいなレストランやコンビニなどのきちんと包装されたものを食べるようにしていたが、それでも一ヶ月目ぐらいで大きき腹痛を起こし、そこから定期的の下痢や便秘になるようになった。お腹の調子を見つつ、調子のいい時は屋台や街中の小さなカンティーンなどでも食べるようにしているうちに、お腹も強くなり、最終的には周りのインドネシア人達と同じように何を食べても大丈夫な体になった。インドネシアの食事はご飯が中心で、麺ものやパンなどもあり、日本人の食生活に似ていて受け入れやすかった。味はとてつもなく辛いものや甘いものがあり、序盤はそういうものは避けていたが、だんだんと慣れてきて、なんでも美味しいと思うようになった。持ち帰りをしても一食100円程度だったので、自炊はほとんどしなかった。油物や砂糖たっぷりのものが多いため、留学中に5kg太った。日本以上に街中に自分でおかずを選べる小さなカンティーンがあったり、屋台があったり、フレッシュジューススタンドがあったり、食べる場所に困ることはほとんどなかった。宗教がらお酒の飲める場所はとて少なく、インドネシア人の友人たちに飲み誘われたことは一度もない。私自身お酒がそこまで強くないのもあり、留学の後半半分ぐらいは一切お酒を飲まなかった。

##### 4-3. インターネット環境、携帯電話について

住居では無料でwifiを使ったため、自分でインターネット環境を整えたことはなかった。wifiは日本に比べるとかなり不安定で、特に大雨が降ると遅くなったりすることや、アパート全体で電気が切れたり、wifiルーターが壊れたりして一時的に切れてしまうことも多かった。スマホには現地のsimカードを入れており、電話もモバイルデータ通信も行うことができた。現地のsimカードは定期的にお金を街中の携帯屋さんでお金をチャージして、切れそうになったらまた支払うプリペイド式であった。そのチャージ金の中から定額制のモバイルデータの申し込みがスマホ上ででき、一ヶ月2GBで800円程度であった。速度は日本に比べると遅かったが、wifiのない場所でパソコンでネットを利用したい場合はテザリングをしたりなどもできた。学校ではwifiのアカウントをもらえなかったの、基本的にパソコンでインターネットは使用しなかった。

##### 4-4. 服装について

大学は基本的に肌を多く露出することはあまり良いとされていないため、いつも半袖のシャツ、長ズボン、スニーカーで登校していた。サンダル、タンクトップなどもあまり好まれない。街中でも肌を露出している人は少なく、時々高級レストランや大型モールなどに派手な格好の人がいた。女性は半数以上がヒジャブのような頭に布を巻いていた。バンドンはインドネシアであるが高地であるため、朝夕は冷えるので、ジャケットなどを持ち運んでいる人が多かった。

## 4-5. 健康管理について

最初の頃はよくお腹を壊していた。突然下痢になることはよくあり、原因は食べ物の不衛生もあったが、途中からは苦手な友人と関わることによるストレスでお腹を壊すようになってしまったので、その友人とは距離をとることでかなりストレス緩和でき、体調も良くなった。ただ油や砂糖の多い料理や飲み物が多かったため、栄養が偏りがちだったので、C1000や飲むヨーグルト、牛乳などを意識的に飲むようにしていた。野菜も不足しがちだったので、そう感じた時は野菜の多く使われている料理を選んで食べていた。風邪気味な時は早めに日本から持ってきた薬を服用しゆっくり休むようにすることで、症状が重くなる前に治していた。デング熱が流行っていたので、朝家から出る前には虫除けスプレーを必ずつけ、家にはベープマットや蚊取り線香を利用していた。

## 4-6. 保険、OSSMAの利用 \* 利用実績等をご記入ください

ossmaと海外保険に入っていたが、病院に行く機会はなかったため、使用したことはない。

## 4-7. 課外活動について

何かの活動に定期的に参加していたわけではないが、友人たちと出かけたり、ご飯に行ったりなどした。また向こうの留学生課のイベントに参加し、バンドンの有名なアジアアフリカ通りでパレードに参加したり、他の留学生と一緒にインターナショナルデーという文化交流のイベントを行ったりした。

## 4-8. 学外のコミュニティとの交流について

自分の住んで居るkostanのオーナー家族やお手伝いさんの家族と仲が良く、ご飯を作ってくれて一緒に食べたり、楽しく話したりなどした。お手伝いさんの子供さんがまだ幼稚園ぐらいの小さな子でよく一緒に遊んだ。またインドネシア語の先生は普段日本語の先生をインドネシア人向けにやっている人だったので、その先生のところに他の時間帯で勉強しに来ているインドネシア人の生徒さんとも仲良くなった。

## 4-9. 日本から持参してよかったもの

薬全般→湿布など外からつけるものは現地のものも利用したが、口から飲むものは少し怖かったので日本のものを使った。  
アルコール入りの消毒液やハンドジェル→現地だとアルコール入りのものがないため、衛生面に慣れるまでは重宝した。

## 4-10. 日本から持参したが不要だったもの

イワシの角煮→お土産に持って行ったが、ハラル対応していないことに気づき、渡せなかった。  
ナプキン、ティッシュなどの紙製品→現地でも同じようなクオリティーのものが安く買えた。  
スーツ→会社訪問などあれば使うかと思ったが、実際はバティックという伝統的な正装があるため、スーツを着ることはなかった。

## 4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

時間の感覚が全く違った。一時間以上待つことは当たり前であった。待たせることに対して悪びれることはなく、一時間単位以下でスケジュールが組まれることはなかった。また何よりも宗教が優先であるため、人を待たせていたり、授業中、仕事中であったりしてもお祈りを優先する人が多く、驚いた。挨拶も女性と男性は握手することはできなかつたり、子供の頭に触ってはならなかつたりと、スキンシップの面でも注意すべき点が多くあった。会話の節々に神に感謝することば(アラブ語)が用いられていたりして、神との関係性についての考え方の違いを感じた。インドネシア内であっても様々な民族からできており、それぞれの言語が存在しているため、バンドンに多いスダ民族のスダ語で挨拶できるだけで喜んでもらえたりした。ゴミを持っていること自体を嫌う人が多く、道や乗り物でポイ捨てる人がとても多く、街の隅の方には常にゴミが溜まっていた。知らない人にもよく話しかけられたが、良い人も悪い人もいるため最初から完全に信頼仕切らないように気をつけていた。

## 4-12. 余暇の過ごし方

旅行 \* 複数回出かけた方はすべての日程、行き先、費用等をご記入ください。

ex) 【イギリス・ロンドン&フランス・パリ(観光)】〇〇年〇月(5日間)、約5万円

【インドネシア、ジャワ島内の都市(ボゴール、ジャカルタ、スマラン、スラバヤ、プロボリンゴ、ソロ)(観光)】2015年12月、2016年1月(12日間)  
 【インドネシア、ジョグジャカルタ(観光)】2016年1月(2日間)  
 【インドネシア、バリ島(観光)】2016年3月(4日間)  
 【シンガポール(観光)】2016年4月(3日間)

その他 \* 気分転換やストレス発散法など。

日本の友達に愚痴を聞いてもらう、SNSを見るなど日本とつながることで少し現実逃避していた。美味しいものが多かったのも、疲れたり、行き詰まった時は少しいいレストランに一人で行ったり、カフェで美味しいコーヒーを飲んだりしていた。毎週日曜日の朝にバンドンで行われるカーフリーデーという小さなお祭りのようなイベントに、散歩がてら見に行ったりした。

## 5. 報告

## 5-2. 留学先大学について(150~200文字)

バンドン工科大学は、首都ジャカルタから車で4時間ほどの距離にあるバンドンという街にある、伝統のある大学である。工科大学としてはインドネシアでトップと言われており、広大な敷地を持ち、たくさんの学生が様々な地方から集まり学んでいる。サークル活動や生徒会のような学生活動、企業との連携プロジェクトや海外大学とのコラボレーションなどの社会的な活動も多く行われている。

## 5-3. 留学中の様子(450~500文字)

授業もkostanでも自分以外インドネシア人の環境であったため、基本的にはインドネシア人と絡んでいて、他の国からの留学生とのコミュニティはほとんどなかった。現地の日本人とも少し交流はあったがそこまで多くはなかった。お酒がないため飲みに行くということはなく、みんなでご飯に行ったらそこまで盛り上がるわけではないが、ゆっくり話しながらのんびりすることが多かった。どこでも床に座ることに抵抗がないため、いろんな人と腰を下ろして談笑したりした。スクールが降るとどうしようもないため、様々な予定がストップした。道路は洪水になり歩ける状態ではないため、その場から動かないようにするのが普通であった。食べ物も飲み物も美味しく食が楽しみの一つになったが、最初の頃は衛生面を気にし、そこまでローカルなものは食べないようにしていたがお腹をよく壊していた。だんだんと慣れてきて何でも食べられるようになった。学業はインドネシア語の講義に英語のスライドの形式が多く、わからない場合は個人的に友人に聞いたりしていた。授業外でも困った時はいつもインドネシア人の友人たちに助けてもらえたので、とても感謝している。

## 5-4. 留学希望者へのアドバイス(300~400文字)

日本よりも様々な面で遅れていると言わざるおえない国であるので、想像もつかないことにも柔軟に対応できる必要がある。文化、宗教などどんなに頑張っても理解しきれない部分もたくさんあり、自分の許容範囲を超えない範囲では向かい合い、本当にきつくなった時は少し離れてみることの切り替えができなければやっていけない。最初の三ヶ月は本当にしんどいと言われるのがインドネシア留学であるが、逆に言うとそれ以降はどんどん楽しくなっていく。旅行では感じられないような深いところがたくさん潜んでいる国でもあり、とても楽しかった。日本人が日々の中で忘れていく生きる上で大切なものがそこらじゅうに存在していて、日本での景色の見え方も大きく変わった。辛いことも多いが、その分成長できる留学になると思うので、頑張り抜いてほしいと思う。

## 5-5. 留学を終えて \* 派遣留学プログラムについて、今後の目標、進路、自信がついた部分、不安に思うことなどなんでも。

まずインドネシアの中で日本人というマイノリティーとして生きることによって精神的にかなり強くなった。言語面やスキル面など自分に欠点があったとしても、自分の持てるもので堂々と対応できるようになった。また現地でたくさんのインドネシア人に親切にしてもらい、助けてもらった。彼らの助けがなければ自分の留学はもっと大変であっただろうし、楽しくなかったらと思う。これから、自分の周りに日本人以外の人たちがいる場合でも、おじけずに対応していこうと思う。もし彼らが困っていたら時間を作ってでも助けてあげたいと思うし、少しでも仲良くなりたいと考えている。日本人は時々日々の生活に追われて、困っている人に手をかすという基本的なことも後回しにしてしまいがちであるので、留学の経験で感じた助け合うことの大事さは忘れず、自分は外国の人に対しても分け隔てなく接していけたらと考えている。また言語面でも、インドネシア語、英語もせっかく身につけたので、できるだけ忘れないように継続して学習、使用していきたいと思う。まだどちらも完璧と呼ぶには程遠く、伝えられないことばかりなので、謙虚に学んでいくつもりである。就職に関しては、日本以外の就職口も視野に入れ、できるだけ広い選択肢から自分にあったところを見つけたいと思う。日本で当たり前になっている職の常識が日本特有のものであることをしっかり理解できたことで、就職してからできることの幅が広がった。

お疲れ様でした